

授業科目名	行動分析学	単位数	2
担当教員名	杉山 尚子	担当形態	単独
実務内容 (実務家教員の場合)			
<p>「学位授与の方針」との関係 ディプロマポリシーの B と E に関連し、行動の問題を科学的に扱う専門知を身につけ、行動の問題を自律的に解決する力を身につけることが本科目の目標である。</p>			
<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <p>(1) 心理学者 B. F. スキナーにより、ヒトの含む動物の行動の科学として 1930 年代に誕生した行動分析学の行動観を理解できる。</p> <p>(2) 行動分析学の基本概念を理解できる。</p> <p>(3) 自分や他者の行動を随伴性で説明できる。</p> <p>(4) 自分や他者の行動の問題を行動の原理を使って解決できる。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>実験行動分析、応用行動分析、概念行動分析からなる行動分析学の哲学、行動観、行動の原理、行動変容の技法を講義とワークショップによって学修する。また応用行動分析の扱う対象が臨床心理学をはじめ、発達障害、精神疾患、教育、特別支援教育、医療、看護、リハビリテーション、コミュニティ心理学、ビジネス、ヒューマンサービス、セルフマネジメント、スポーツ、動物のしつけとトレーニング、高齢者支援などに及び、確実な成果をあげていることについて実践例を通して学修する。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第 1 回：行動分析学における行動の捉え方</p> <p>第 2 回：行動とは死人にはできないことである</p> <p>第 3 回：レスポナント行動の原理</p> <p>第 4 回：オペラント行動</p> <p>第 5 回：オペラント行動の原理と実践例 (1) 好子出現の強化</p> <p>第 6 回：オペラント行動の原理と実践例 (2) 嫌子消失の強化</p> <p>第 7 回：オペラント行動の原理と実践例 (3) 嫌子出現の弱化</p> <p>第 8 回：オペラント行動の原理と実践例 (4) 好子消失の弱化</p> <p>第 9 回：オペラント行動の原理と実践例 (5) 消去と復帰</p> <p>第 10 回：オペラント行動の原理と実践例 (6) 分化強化</p> <p>第 11 回：シェイピングとチェイニング</p> <p>第 12 回：刺激性制御 (弁別と般化)</p> <p>第 13 回：言語行動</p> <p>第 14 回：随伴性形成行動とルール支配行動</p> <p>第 15 回：研究法 (行動の測定・記録と実験計画法)</p>			

定期試験

スクーリングでの学修内容

- (1) 行動分析学的行動観 (第1回の内容) <講義>
 - (2) 行動の定義 (第2回の内容) <ワークショップ>
 - (3) レスポンデント行動の原理 (第3回の内容) <講義>
 - (4) 基本的な行動随伴性(第5回~第9回の内容) <ワークショップ>
 - (5) シェイピング (第11回の内容) <ワークショップ>
 - (6) 行動の記録・測定と実験計画法 (第15回の内容) <講義とワークショップ>
- (主に、第1回~第3回、第5回~第9回、第11回、第15回の内容を含む。)

教科書

- (1) 杉山 尚子・島宗 理・佐藤 方哉・マロット, R.W.・マロット, M. E. (1998) 『行動分析学入門』産業図書

参考文献 (番号順におすすめてす)

<行動分析学の基礎/実験的行動分析>

- (1) 杉山 尚子 (2005) 『行動分析学入門—ヒトの行動の思いがけない理由』集英社
- (2) 吉野智富美・吉野俊彦 (2016) 『プログラム学習で学ぶ行動分析学ワークブック』学苑社
- (3) 奥田 健次 (2012) 『メリットの法則—行動分析学実践編』集英社
- (4) スキナー, B. F. (2003) 『科学と人間行動』二瓶社
- (5) 佐藤 方哉 (1976) 『行動理論への招待』大修館書店
- (6) 小野 浩一 (2005) 『行動の基礎』培風館
- (7) レイノルズ, G. S. (1978) 『オペラント心理学入門—行動分析への道—』サイエンス社

<応用行動分析/分野別含む>

- (1) 島宗理 (2019) 『応用行動分析：ヒューマンサービスを改善する科学』新曜社
- (2) クーパー, J. O., ヘロン, T. E., ヒュワード, W. L. (2013) 『応用行動分析学』明石書店
- (3) 山本淳一・武藤崇・鎌倉やよい (編) (2015) 『ケースで学ぶ行動分析学による問題解決』金剛出版
- (4) ミルテンバーガー, R. G. (2006) 『行動変容法入門』二瓶社
- (5) 舞田 竜宣・杉山 尚子 (2008) 『行動分析学マネジメント』日本経済新聞出版社
- (6) ランメロ, J. & トールネケ, N. (2009) 『臨床行動分析のABC』日本評論社

学生に対する評価

スクーリング評価 (25%)、レポート評価 (25%)、科目修得試験 (50%) を総合して評価する。